岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

FIELD SCIENCE NEWS

FS NEWS
NO.1
Mar./15/2003

開所式・記念シンポジュウム開催

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターの開所式と記念シンポジュウムが、平成14年7月5日に農学部の農業教育資料館において開催された。

130余人の参加者を前に挨拶する太田農学部長

太田義信農学部長式辞

本日は、これまで長年に渡り実現を望んでおりました寒冷フィールドサイエンス教育研究センターが晴れて開所式を迎えましたことは、農学部として此の上ない喜びであります。

これまでのセンター設置の経緯を振返ってみますと、長い歴史の伝統を活かしながら新しい時代に相応しい教育研究組織に生まれ変わっていくことの必要性とそのための努力の大きさを痛感しております。わが農学部の母体であります盛岡高等農林学校は、明治36年５月に入学式を挙行しましたが、その折、30haほどあった上田キャンパスは殆どが原野のままであり、当時の農場実習は正に開墾から始まったと言われて附属農場は重要な役割を果たしてきました。演習林については明治38年に農務省から御明神演習林562haを譲り受けたのが始まりです。

これまでほぼ１世紀に渡って農場と演習林は、各々独立した組織として教育研究と実地の管理運営に当たって参りました。この２つの農学部附属施設を統合しようという構想は、平成４年に「生物生産技術センター」として浮上しましたが実現しませんでした。この度の「寒冷フィールドサイエンス教育研究センター」構想案は、平成12年１月教授会に将来計画委員会から提案され、４月から本格的な検討に入り、横田農場長、猪内演習林長に若手の附属施設教員が加わり構想を練り、文科省と何度も打合せて２年を掛けて纏め上げたものです。これまでの農場の機能は第２分野の持続型農業生産技術分野として、演習林の機能は第３分野の循環型森林管理技術分野となって存続しておりますが、新たに第１分野として、地域フィールド総合科学分野を立上げた点に最大の特徴があります。

寒冷地農業について農学部、農場及び演習林と地域社会を繋ぎ、これまでの研究成果を公開し還元していくエクステンション活動を担当し、さらに東北地域の農業問題を大学や近隣の国や県立試験研究機関と共同で解決に当たるコーディネータ役も期待して設置しました。そのために農学部から教授１名を支援し、センター全体として７名体制に強化しております。

各分野が新しいコンセプトのもとでこれまで以上に教育研究に活躍されますと共に、３分野が連携することによる大きな相乗効果が生み出されますことを期待しております。

平山健一学長祝辞（一部抜粋）

本日ここに多数のご来賓の皆様を迎え、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターの開所式を挙行できますことは岩手大学にとりまして大きな喜びでございます。

本センターは、従来の附属農場、附属演習林を再編統合したものでございますが、これまでそれぞれの附属施設が担ってまいりました寒冷地の農業や積雪地の林業等、産業に関わる教育研究の実践の場としての役割や、田畑や森林が果たしてきた国土と環境の保全に係わる検証に加え、新たに人間社会と自然環境が共存してきた中山間地域を総合的に捉えた広域的な社会環境システムの教育研究の進化と、地域の活性化のための方策を究明することをこれからの役割としております。

本センターの設置にあたりましては、従来の枠組みにとらわれず、科学の総合化という新たな観点から組織の機能の向上に積極的に取り組まれました農学部関係各位のすがすがしい意気込み、そして文部科学省の支援に対して心から敬意と謝意を表したいと思います。

日本の面積の約10%を占める北東北三県は、その75%が中山間地とされており、この広大な地域のあり方は、地球規模で循環する自然環境にとっても北東北の今後の発展にとっても大きな影響を有していることはいうまでもないことでございますし、本センターに対する地域からの期待は大きいものがあろうかと思います。

本センターが、木村伸男センター長を中心にして教育学術の両面において、地域から嘱望される課題に対して、これまでの業績を上回る成果を生みだし、世界に向けて発信されることを大いに期待しています。また、運営面では、これまで以上に地域社会との様々な連携を密にして行くことを心がけ、自立した教育研究組織となるよう努力していただきたいと思います。

また、本日ご臨席の皆様には、本センターに対する一層のご支援、ご活用を衷心よりお願い申し上げ、本センターの開所式にあたってのご挨拶といたします。

増田寛也岩手県知事祝辞（橋田純一出納長代読・一部抜粋）

本日ここに岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター開所式が挙行されるにあたり一言お祝いを申し上げます。

本教育研究センターが広大な農場や演習林などを研究フィールドとして総合的かつ実践的な教育研究と地域貢献を目的に設立されましたことは北東北、とりわけ本県にとりまして、誠に喜ばしい限りであり、心からお祝いを申し上げます。

ご案内のように、最近における我が国の農林業や農山村は、輸入農林産物の増加による自給率の低下、従事者の減少による生産活動の停滞や地域活力の低下が懸念されるなど、様々な課題に直面いたしております。こうした状況の中にあって、本県農林業を一層発展させるためには、広大な県土や変化に富む気象条件のもとで、多彩な資源を最大限に活用するとともに、環境に配慮した資源循環型の生産システムを構築し、生産の拡大や生産物の高付加価値化を図るなど、産業としての競争力を高めて行くことが極めて重要であります。その実現にあたりましては、岩手大学農学部の研究成果をもとに、農林業の関係機関・団体が相互に連携を強めながら現場の視点に立ち、一丸となった取り組みが必要であると認識をいたしております。

時あたかも岩手大学農学部が創立百周年の記念すべき年に、新たな飛躍を目指し地域フィールド総合科学、持続型農業生産技術、循環型森林管理技術、それぞれの分野にわたり、これまで以上に実学的な研究に取り組まれ、その成果を地域へ還元する新たな体制を整備されましたことは、まことに時宜を得たものであり、大いに期待を寄せているところであります。

本センターが地域貢献の拠点として所期の目的を達成されますとともに、21世紀の我が国並びに本県農林業の発展のため一層ご尽力下さるよう祈念いたす次第であります。終わりに、岩手大学農学部の今後ますますのご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

基調講演およびシンポジュウム

基調講演「岩手大学農学部の地域貢献について」

岩手県農林水産部長　佐々木正勝

シンポジュウム「寒冷フィールドサイエンス教育研究センターへの 期待と対応」

司　　会　木村センター長
助 言 者　岩手県農林水産部長……佐々木正勝
パネラー　岩手県農業研究センター副所長…佐々木忠勝
　　岩手県水沢市長……後藤　晨
　　岩手県林業協会副会長……下山　裕司
　　農業法人協会会長……佐藤　公治
　　農学部長……太田　義信

教育トピックス

センターでは農学部１年次必修科目として総合フィールド科学（毎週）：2単位　総合フィールド科学実習（毎週、夏季集中）1単位の2科目を開講している。新たな農学観に立脚する高度専門技術者の養成を図るため、農学部1年次にフィールド関連科目を学部必修で実施しているのは全国唯一岩手大学のみである。

学生の声

総合フィールド科学

男：農学らしい農学で専門に進む前にこの授業が受けられてよかった。
男：１年は農学の専門分野をあまり勉強できないので、授業が楽しみだった。
女：あまりなじみのない自分にとって新鮮であった。
男：専門に進む前に、このような授業が受けられて良かった。
男：図や表だけでなく、講義内容のまとまったプリントを配布してほしい。
女：もっと広い部屋でしてほしい。

総合フィールド科学実習（下台圃場）

女：実際にジャガイモを作ってみて農業がすごく手間がかかると理解できた。
男：ジャガイモと枝豆を育て、収穫した時の喜びは大きかった。雨の実習はきつかった。
女：机の上だけでなく、実際に土に触れて、収穫したことが良い経験になったと思う。
男：今まで農作業をする機会がなかったので、作業ができて良かった。
女：実際に土に触れて野菜を作ったのは小学校以来で、年甲斐もなくはしゃいでしまった。
男：楽しく野菜の栽培のしかたを知ることができた。
女：実際に作物を育てたのは初めてでとても良い経験になった。楽しかった。
女：畑を見ながらグループ内で交流ができて楽しかった。

総合フィールド科学実習（農場、演習林）

女：畑や果樹園等解説のついた見学はとても勉強になった。
男：アカマツの問題が印象に残っている。様々な研究が行われているなと感じた。
女：山登りはすごくつかれた。
男：牛とのふれあいが良かった。
男：大学の施設の概要を知る意味では良い。
女：牛と触れ合ったり森林の中に入ったりして楽しかったです。
女：話を聞くだけでは分からないようなことを森の中を歩くことで肌で感じることができて良かった。
男：岩手大学の立派な施設を見ることができ、木々、山の植生に触れることができ良い経験だった。

地域への貢献の展開

地域フィールド総合科学分野

水沢市と岩手大学との相互友好協定締結シンポジュウム	H14年 5月21日(火)
フィールドセンター開所式シンポジュウム	H14年 7月5日(金)
産業実践大学の開講	H14年 7月6日(土)
元気で活力あふれる農業振興フォーラム	H14年 12月12日(木)
フィールドビジネスフォーラム水沢 2003	H15年 3月18日(火)

持続型農業生産技術分野

第2回 フィールド科学体験教室 －カレーライスを科学する－

開講式、スイカ接ぎ木、田植え	H14年 5月11日(土)
スイカ、ニンジン定植、葉菜播種、リンゴ摘果	H14年 6月8日(土)
乳搾り、哺乳、花壇作り	H14年 7月13日(土)
ジャガイモ、ニンジン収穫、カレーライス作り	H14年 8月10日(土)
豆腐、ブルーベリージャム、乳酸飲料加工	H14年 9月14日(土)
稲刈り、リンゴ収穫	H14年 10月12日(土)
稲の脱穀、籾摺り、ワラ草履作り、閉講式	H14年 11月9日(土)

循環型森林管理技術分野

第10回 公開講座 「学校における森林教育の進め方」	H14年 8月9日(金)
第32回 フィールドセミナー「総合学習における森林教育3」	H14年 5月30日(木)
第33回 フィールドセミナー「温帯林における森林管理・動植物環境実態」	H14年 6月8日(土)
第34回 フィールドセミナー「総合学習における森林教育4」	H14年 6月28日(金)
第35回 フィールドセミナー「森の研究現場で学ぶ」	H14年 7月7日(日)
第36回 フィールドセミナー「紅葉の演習林を歩こう」	H14年 10月20日(日)
第37回 フィールドセミナー「天然アカマツ林の管理」	H14年 11月28日(木)
第38回 フィールドセミナー「かんじきを履いて冬の森を歩こう6」	H15年 2月23日(日)
第39回 フィールドセミナー「かんじきを履いて冬の森を歩こう7」	H15年 3月9日(日)

岩手大学と東北森林管理局青森分局相互友好協力協定締結

岩手大学と東北森林管理局青森分局は、学術研究の分野において援助・協力するために、平成15年3月3日に協定を締結した。両者の連携を進めるための、岩手大学の窓口は寒冷フィールドサイエンス教育研究センターが行うこととなっている。

協定書を取り交わす平山学長と萩原分局長

相互友好協力協定締結を記念して、岩手大学と東北森林管理局青森分局の相互理解と提携を今後実りあるものに発展させるために、附属図書館において関係者80人の参加を得て、第1回フィールド科学フォーラムが開催された。フォーラムは、福井正明学長特別補佐、木村伸男センター長の挨拶の後、萩原宏分局長による記念講演「21世紀の国有林(青森分局を中心に)」が行われた。次いで、猪内副学長を座長にパネルディスカッションに移り、3名のパネラーから話題提供があり、引き続き総合討論が行われた。

話題1「岩手山の火山防災における連携」斎藤徳美工学部教授

話題2「野生動物の生態調査と森林管理」青井俊樹農学部教授

話題3「北東北における伐出システムの水準と展望」澤口勇雄農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター教授

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター教育研究部
〒020-8550 盛岡市上田3丁目18－8 TEL/FAX 019(621)6234
E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/